

- 清瀬と結核医療の歩み
- 1931年 多摩地域初の公立結核療養所として、東京府立清瀬病院が開設
 - 1930年 結核療養所が次々と開設され、病院街が形成される
 - 1943年 結核研究所が清瀬市に移転、研究と医療の拠点へ
 - 1944年 東京府立清瀬病院が1100床を有する大規模療養所へ発展
 - 1950年 療養者や見舞客の増加により、商店街が誕生
 - 1960年 抗結核薬の普及により結核の罹患率が低下
 - 1962年 国立療養所清瀬病院と国立東京療養所が統合
 - 1970年 病院機構を国立療養所東京病院へ集約、国立療養所東京病院清瀬病棟閉鎖
 - 現在 結核医療の歴史を背景に、研究・啓発活動が続ける

医療のまちの歴史をひも解く

清瀬市が結核医療の拠点として歩んできた歴史を写真と年表で紹介。まちと医療の関わりをひも解きます。



清瀬病院街航空写真 1943年 (国土地理院の空中写真C59-C2-44を加工)

2 病院街の発展

昭和6年の東京府立清瀬病院開設をきっかけに、周辺には10数の結核療養所が誕生し、いわゆる「病院街」が形成されました。



東京府立清瀬病院玄関

1 結核の歴史

結核はかつて「亡国病」と呼ばれ、不治の病として恐れられていました。昭和初期から多くの患者を収容するため療養所が設けられ、治療と予防の研究が進められました。

4 清瀬市の役割

清瀬市は結核医療、研究、国際研修の拠点として結核対策を支えています。ここで培われた経験は、国内をはじめ世界各国の医療現場や次世代の感染症対策にも生かされています。



紙芝居 結核裁判

3 啓発活動

結核の正しい知識を広めるため、予防や早期発見の啓発が重ねられてきました。療養生活を送った人々の記録や文学作品も、結核への認識や理解を深める役割を果たしています。

清瀬結核サミット Kiyose TB Summit 2025



医療のまち清瀬が世界に問いかける

清瀬結核サミット

結核医療の拠点として歩んできた清瀬市。その歴史と役割をあらためて見つめ直し、国内外の関係者とともに、結核対策の現在と未来を共有する「清瀬結核サミット」を開催しました。当日は、結核と向き合ってきた清瀬の歩みを振り返るとともに、「清瀬結核サミット宣言」が採択されました。



結核予防会総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下がサミットにご臨席され、登壇者の話に耳を傾けられました

清瀬市は、かつて全国でも珍しい「結核療養所が集まるまち」でした。昭和6年（1931年）、東京府立清瀬病院の開設をきっかけに、市南西部の雑木林一帯には結核療養所や研究施設が次々と設けられ、最盛期には10数施設、約5000人もの患者を受け入れ、いわゆる「病院街」が形成されました。都心から近く、自然環境にも恵まれた清瀬は、結核と闘う人々と医療を支える人々が集うまちとして知られていきます。

当時、結核は「亡国病」と呼ばれ、不治の病として恐れられていました。有効な薬がなかった時代、療養には長い時間が必要とされ、患者は安静と栄養、そして清らかな空気のもとで回復を目指しました。清瀬の療養所は、そうした医療を支える重要な役割を担ってきたのです。

やがて抗結核薬の開発により、結核医療は「療養の時代」から「治療の時代」へと移行します。患者数の減少とともに、多くの療養所は一般病院へと姿を変えましたが、清瀬は今なお、結核医療の拠点であり続けています。現在、東京都内にある結核病床の半数弱が清瀬に集まっており、耐性結核など高度

清瀬で清瀬結核サミットを初開催

清瀬で培われた知見は、医療技術にとどまりません。BCGワクチンの研究・製造、国際研修を通じた人材育成など、その成果は国内外へと広がり、世界の結核対策にも貢献しています。清瀬は、静かに、しかし確かに「世界を支える医療のまち」として歩み続けてきました。

こうした清瀬の歴史と現在を背景に開催されたのが、「清瀬結核サミット」です。サミットの最後には「清瀬結核サミット宣言」が採択され、清瀬と結核の関わりを振り返り、次世代へ伝え、そして未来の感染症対策へと引き継いでいく決意を述べました。

国内を始め世界各国の関係者が集い、このまちが積み重ねてきた経験と想いを信じ、未来への課題を共有する場となりました。

中高生のアンバサダーたちが若者目線で発表しました

市内在住・在学の中高生たちが「清瀬結核サミットアンバサダー」として登壇し、自らの言葉で学びを発表しました。自分の通う学校や身近な場所が結核の歴史と結びついていたことを知り、まちの見え方が変わったと語る場面も。発表を通じて、学びを共有し続けることが、地域の記憶を次へつないでいく力になることが示されました。



世界とつながるトークセッション

サミット終了後は「清瀬結核サミットアンバサダー」を務めた市内在住・在学の中高生たちと、JICA国際研修生の皆さんによるトークセッションイベントを実施し、結核予防会総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下にもご臨席を賜りました。JICA国際研修生との交流を通じて、世界と結核について理解と関心を深めるイベントとなりました。



清瀬市郷土博物館特別展「清瀬と結核」が好評のうち閉幕

清瀬市郷土博物館で清瀬結核サミットと同時開催した特別展「清瀬と結核」結核療養の歴史と現在、そして「未来」は、約1000人の方々にご来館いただき、好評のうちに幕を閉じました。写真や資料を通して、清瀬市が結核療養の地として歩んできた歴史や、療養生活の様子、医療の変遷を紹介。結核を遠い過去の出来事としてではなく、今につながる歴史として捉え直すきっかけとなる展示でした。

